

# Offshore 223

MARCH·APRIL 1994 3・4月号



# 清水栄太郎専務理事 逝く



葬儀ならびに告別式は3月20日しめやかに行われた

18年間、専務理事として協会を支えてこられた清水栄太郎氏が、3月14日午後8時、くも膜下出血のため入院先の慶応義塾大学病院で亡くなりました。

外洋ヨットの黎明期から今日にいたるまで長きに渡り、協会ならびに日本の外洋ヨットの発展に尽くされた氏の業績は多大なものであり、心からお悔やみ申し上げます。

葬儀ならびに告別式は、3月20日に行われ、友人代表として石原慎太郎前NORC会長が、そしてNORCを代表して並木茂士副会長(会長代行)が、それぞれ弔辞を述べられましたので、ここに紹介いたします。

(編集部)



ラットを握るあり日の姿の周りにヨット仲間からの献花

# 弔辞

## 石原慎太郎

清水栄太郎さん、いや栄ちゃん、あなたはなんでこんなに早く、そして突然にいつてしまったのですか。

あの大雪の降った2月の連休の週末、あなたは日本外洋帆走協会の関東支部総会に出席していた席上突然倒れて返らぬ人となりました。

とはいえ、海で鍛えたその体は主治医たちのわずか3日が勝負の限界という診断と予告を覆し、以来30日の闘病を経た末についに力尽き、返らぬ旅に発ってしまいました。

いま、あなたを突然失って私や仲間たちは、ただただ茫然と、奪われたものの大きさについて感じ入るのみです。

私はこの10年余日本外洋帆走協会の会長の席にありましたが、時代の激しい変化の中で多くの問題を抱えた協会にあってあなたが専務理事として、忙しい社業のかたわら、いつも笑顔を絶やさず厄介で複雑なことごとくに当たってってくれたからこそ、その勤めをなんとか全うすることができました。協会も無事運営されてきました。

あなたなくして、NORC-日本外洋帆走協会はあり得なかったと思うのは決して私1人ではないと思います。NORCの最近の歴史の多くの部分は、まさしくあなたあってのものと思っています。

いま改めて、あなたの協会への献身的な奉仕に、海の仲間を代表して心からお礼を申し上げます。

しかし、それよりも何よりも、私にとってあなたは、海にいる時、海を思う時欠かすことのできぬ人生の友だちでした。海に関わるあなたの思い出は語り尽くせぬものです。

日本の外洋帆走がまだ黎明期にあった頃から、私たちは今よりもはるかに美しく、また広く、遠くもあったあの海で一緒に走り、一緒に酒を

飲み、歌って騒いで、得難い思い出をつくり合いそれぞれの人生を満たしてきました。

なによりも、なによりも懐かしいのは、あの憧れのトランスパックレースに1963年、日本から初めて万感の思いを抱きながらはるばる参加したことです。

ことのさまざまが、いまでも熱く熱く、この胸に蘇ってきます。なにもかもが、目に、耳に新しく、心に熱いできごとばかりでした。

私たちはまさしく先駆者としての、選ばれた者としての自負と、誇りと、栄光を担いながら、ロサンジェルスからホノルルまでの2,200マイルの道のりを走ってたきと思います。

なかでも忘れられない思い出があります。行程の半ば頃、フルセイルの帆走も慣れて、わずか40フィートの船ながらプレーニングでは時折15ノット近い速度も出した帆走にも麻痺してきた頃、日没と夕焼けを眺めながらコックピットでの晚餐の始まる時刻でした。

ちょうど私が舵を引いていましたが、見るとスピンのハリヤードが緩んでスピンのがずり落ちているのに気づき、仲間に告げたと、誰も食事に気を取られて後回しということになった。

そして急に風が落ちてしまいスピンのがフォアステイに絡まって、とんでもないトラブルになってしまった。食事どころではなくなり、オールハンズ・オンデッキでスピンのの回収にかかったが、スピンのハリヤードがマストの頂上でトラブルをおこして誰かがボースンチェアで頂上まで上がらなくてはならなくなった。

そういう仕事は最年少のクルーの役目に決まっていますが、最年少の石川は前夜に裸足で作業していて怪我をしていて役に立たない。結局、



「よし、俺がいくよ」と栄ちゃんが言い出し、はげしく揺れる船の15mもあるマストの頂上まで栄ちゃんをボースンチェアで引き上げた。

その間、みんながいままでになく必死の思いであなたを吊り上げ、なんとか無事に甲板に降ろしたが、作業班長の福吉ジューイさんのあの時のいつにもない真剣な顔を忘れられない。

そして、無事降りてきた栄ちゃんが莞爾として、

「いやあ、マストの上から、みんなには見られない太平洋の日没を眺めてきたよ」といったものだった。

あの時の、無事に戻ってきてくれたあなたに歓呼の声を上げてすがりついていた仲間たちのあの熱い共感。

そしてその夜密やかに記した日記に、あなたが書いていた、あの高い、激しく揺れるマストに、独り昇っていく人間の恐怖と、緊張の心境。日本に帰ってからそれを読ましてもらった時、強い強い共感を感じたものでした。

思ってみればあの時のクルー、あなたの他に、私、岡本のソン、福吉ジューイ、ジョー・ミラー、田中のドコドン、市川、石川、全員8人のうち、もうすでに市川と田中はこの



昨年のトランスバックレース終了後、娘さんを乗せてハワイ沖で休日を楽しむ故人の思い出

世を去り、今度は栄ちゃんを失って残るはわずか5人になってしまいました。つくづく、しみじみ、人の世の移り変わりの速さに、空しさをかこたぬ訳にはいきません。

しかし私たちはある意味では選ばれた者として、あの海という千変万化の素晴らしい、存在の光背の中で、他人が陸では味合せぬ「人生の時の時」を味合いつくしてきたともいえます。

あの1963年のトランスパックもまた素晴らしい青春のモニュメントであり、情熱の航跡です。

そして昨年あなたはあの懐かしいトランスパックに、今度は自らマキ

シボートの「月光VIII世」を仕立てて参加しました。私も誘われたのですが残念ながら選挙と重なってしまい、願いはかないませんでした。

そして、来年のトランスパックには、我々OBが、若い者たちを叱咤しながら、必ず全員で乗り込もうといい合っていた矢先のことです。

今はもう、いかなる饒舌もこの別れの口惜しさ、切なさをいつくすことは出来ません。

栄ちゃん、かくなつたいまは、ただただ安らかに眠って下さい。そして、あなたが昇ったマストよりもはるかに高い天国から、私たちのレースを見守り、ピンチの時には手をさ

しの昔の仲間を助けて下さい。

私たちは海に出る度、風の吹く度、風の風ぐ度、そしてまたいつの日かあの太平洋の夕焼けを眺め、スクールの過ぎる度海の上一面無数に立つ虹の林を眺める時、必ずあなたを思い出すことでしょう。

今、万感の思いを込めて、トランスパックの時に教わった、実は、別れの時だけではなしに、出会いと、再開と、感謝と、共感と、他のすべて美しく楽しい人の心を表すという、アローハの挨拶を最後に告げて、あなたを送りたいと思います。アローハ、栄ちゃん！アローハ！

## 弔辞

並木茂士

昭和27年夏、千葉県那古での合宿で一緒に過ごし、ヨットを学んで今日までの42年間……。よもや今日、貴君の霊前でこのような弔辞を読むことになろうとは思ひもありませんでした。

2月12日、大雪のNORC関東支部代議委員会に見えられ、短い時間でしたが2人で話をしました。そのとき多少疲れている様子で、私の話に短く2、3度うなづかれ「また、後で」との一言が最後になりました。

ヨットを友とし、貴君を友として過ごした年月がこんな突然に終わってしまうとは全く信じられません。非常に残念です。

思えば「早風」で、また、「月光I世」で横浜の海、相模湾、伊豆の島々を走り回った学生時代、社会人になっても、結婚しても我々のヨット乗り人生はますますエスカレートしていきました。

貴君は早くも昭和38年に「コンテッサ」でトランスパックレースに参加され、その体験談をうらやましく聞いていましたが、私達も昭和41年に「月光II世」でチャイナシーレー

スに初めての海外レースとして参加。その折りの貴君の行動力には、クルー一同頭の下がる思いで、貴君がいなければ「月光チーム」はありえないことを痛感いたしました。

外洋レースに魅せられた我々はそれ以来、沖繩レースやトランスパック、そして昭和52年にはアドミラズカップレースを共に戦いました。

そのなかでも忘れられないのが、悪天候で多くの犠牲者を出したファーストネットレース。貴君は狭く揺れるチャートテーブルに座り、30数時間一睡もせずデッキの上の私を励まし続けてくれました。

栄ちゃん、貴君が居てくれたおかげで、あの大嵐の中、船体は分解寸前になっても1人の犠牲者もなく、無事にアイルランドのロイヤルコーク・ヨットクラブに着くことができました。文字通り生命懸けのレースでの貴君のずぶ濡れのあの顔、あの元気な声、今でも鮮明に思い出します。

NORCの専務理事として18年間、本当にご苦労さまでした。貴君が倒れた後、大混乱していますが、私達



残された会員で時間はかかりますが、貴君に満足してもらえるような協会にしていきたいと思います。情熱を傾けてNORCのために尽くしてくれた貴君を我々は忘れません。

栄ちゃん、どうぞ安らかに出航して下さい。そして残された我々のヨットレース、人生レースを見守ってください。いずれ、美味しい酒を沢山持ってそちらに行きますから。

クルー一同と共に栄ちゃんのご冥福を祈ります。

# 35th鳥羽パールレースTシャツ・デザイン募集

東海支部 第35回鳥羽パールレース実行委員会  
毎年、ご好評をいただいていますTシャツですが、第35回・鳥羽パールレースのデザインを、下記のとおり募集いたします。

昨年は全国から応募をいただきまして、大変ありがとうございました。今年も多数のご応募をお待ちしています。

## 〔募集要項〕

### 1 デザインの条件

- (1) Tシャツなどに使用できるもの
- (2) ヨットまたはヨットレースに関するもの
- (3) 次の文字が入っていること
  - ア 『第35回』英文字の場合『35th』または『The 35th』
  - イ 『鳥羽パールレース』または『TOBA PEARL RACE』
  - ウ 『'94』または『1994』
  - エ 『日本外洋帆走協会』または『NORC』または『NIPPON OCEAN RACING CLUB』それぞれのいずれか1つ。ただし、英文・和文・字体・書体および入れる位置は自由とする。

### 2 デザインの提出方法

- (1) Tシャツの実寸法、着色図とする。  
プリント位置（胸側か背中側か等）を指定すること
- (2) 地色も含めたカラーバリエーションの指定があれば

ば、併せて提出する。

- 3 提出先、提出の締切り  
NORC東海支部事務局・平成6年5月31日(火)必着
- 4 選考  
応募作品は、東海支部・第35回鳥羽パールレース実行委員会で選考する。
- 5 賞
  - (1) 特選1点 賞金5万円  
佳作 5点まで
  - (2) 賞金総額10万円
- 6 版權、その他

- (1) 応募作品は返却しない。
- (2) 版權は東海支部に帰属する。
- (3) 入選作品にはTシャツを送る。

詳細についての問い合わせは、下記東海支部事務局まで  
〒460名古屋市中区丸の内 3-21-21 丸の内東  
桜ビル902号 ☎052-971-5835

昨年の応募者（敬称を略させていただきます。）

藤沢市：小倉千加子 東京都杉並区：柏村安良理

名古屋市：石原重幸

横浜市：磯和一郎 東京都板橋区：中宮るり

名古屋市：工芸四季

津市：藤原凡子 池田市：中堂武賢

ご応募ありがとうございました。今年もご応募をお待ちしています。

## 編集長辞任の弁

朝河 清

10年間理事として協会事業に力をつくされた朝河清氏は本年をもって当要職を離れることになり、そのため会報小委員会委員長も後任にバトンタッチすることになりました。4年間にわたって本誌発刊に努力され、ありがとうございました。

（編集部一同）

委員長・編集長の重責を約4年の長きに渡って勤めさせていただきましたが、次号より今岡さんと交代することになりました。

清水さんがお元気なとき、編集長をそろそろ降坂をとお願いしてご了承をいただいていた。

このたびの清水さんの突然のご逝去に大きな悲しみに暮れています。師と、また親分と仰ぎ尊敬し、お叱りもいただきましたが、最後にいつ

もご苦労さんの一言にめげず心を癒され、また頑張るかた奮い立ち今日まで精一杯やってきました。

私のような浅学非才な者に編集長という大役を務めさせていただいた清水さんはじめNORC会員の皆様に感謝一杯です。

印刷費、発送費、編集実費の他は予算ゼロ、厳しい現実の中タダタダ編集員の熱意と会員の方々のご好意の投稿がオフショア誌面を成り立たせています。

会員が受けられる唯一平等な目に見えるサービス、その大事なオフショア誌をマンネリでやってはならず、飽くなき努力と向上心と熱意が必要です。

今岡さんと今までの編集員と新しいスタッフがより良いオフショア誌

にしていただけると幸いです。

私はしばらく休ませていただき、セーラーとして初心に返って充電を仕直し、10年後には一会員として全国を訪ね歩き、また見聞録を書かせていただきたいと思います。

ヨットを学ぶにはヨットレースが一番だよと教えられ、その面白さに夢中になって20年。まだまだ未熟ですが、ヨットに初めて乗った時のシートを引き込むと艇がスルスルと音もなく進んだあの感動を思い出し、今ではなくしてしまったあの素直な感性を取り戻してきます。

無知厚顔不遜な編集長でしたが、4年間も持ったのは今の優秀な編集員の方々のおかげでした。ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

# 第33回東京ボートショー開催される

## NORCブースには多数のクルー応募者が!

今年もボートショーが青海で開催されました。会場は不況の波をモロに受けた感じで、出展社も昨年よりずっと少ない様でした。NORCはメイン会場のドーム館の一角に出展いたしました。運営は海事思想普及委員長・内藤氏の指示のもと、ボランティアの方々があたりました。今年は海事思想の普及、NORCグッズの頒布、クルー募集等会員の便宜

を計る事を主目的としました。

ヨットの展示はパワーボートの1/4程度でしたが、1995年アドミラルカップから採用が決まっているMUM M36には多くのヨットマンが関心を寄せていました。見るからに速そうなハルラインとビームの張ったスターン部、それらに加えて内装は全くのクルーザー仕様というこれからのIMS艇の見本の様な感じてした。



NORCブース

## 1994~95年度担当役員等役職

社団法人 日本外洋帆走協会

名誉会長 石原慎太郎

会長代行 並木茂士

副会長 並木茂士 小林義彦

専務理事 児玉萬平

常務理事 久保和男

特別委員会

訴訟対策委員会

委員長 大儀見薫

委員 並木茂士 小林義彦 古川保夫  
石井正行 今岡又彦 尾島裕太郎  
児玉萬平 服部一良 (事務局)

構造改革委員会

委員長 児玉萬平

委員 並木茂士 小林義彦 大儀見薫  
古川保夫 宮坂敬三 石井正行  
都築勝利 山村彰

オブザーバー 高田尚之 尾島裕太郎

外洋ヨット安全対策特別委員会

委員長 大儀見薫

メルボルン/大阪DHレース

委員長 秋田博正

支部長

関東支部 並木茂士 玄海支部 末松 明

駿河湾支部 柴田邦敏 沖縄支部 城間祥行

東海支部 小林義彦 津軽海峡支部 米山義勝

近畿北陸支部 三井祥功 北海道支部 田中良治

内海支部 秋田博正 常磐支部 川崎 貢

西内海支部 岩田行史 南九州支部 池田時也

専門委員会

委員会名 担当理事 委員長 副委員長

総務 児玉萬平 古川保夫

国際小 戸田那司 鈴木一行

会報小 今岡又彦 浅野英武

財務 児玉萬平 鈴木保夫

保険小 児玉萬平 (兼務) 新田肇

海事思想普及 内藤恒夫

クルージング 小林義彦 (兼務) 和久井喜次郎

安全 古川保夫 長江博人

計測 林賢之輔 大橋旦典

技術 林賢之輔

帆走 宮坂敬三 尾田英明

植松清

ルール 石井正行

通信 稲葉文則 池内貞二

法政 並木茂士 (兼務)

泊地対策 安岡信一 渡辺康夫

顧問

顧問会議長 平松栄一

顧問 福永 昭

名和幸夫

塩路一郎

飯島元次

加藤忠夫

渡辺修治

野本謙作

大原 敦

## 投稿

オフショア220号掲載座談会

“事故の向こうに見えてくるもの”  
にももの申す!

児玉 登



OFFSHORE誌220号座談会“事故の向こうに見えてくるもの”を読んで、もう少し話のポイントを諦めないで先が見えて来ないのではないかと感じました。

座談会全部を通じて、出席者の皆さんは「船主」とか「オーナー」とかの言葉を漫然と使っておられるし、「責任」についても法律上の「責任」と一般常識上の「責任」とを混同しておられます。最初からはっきりと定義付けて、話を進めていけばもっと核心を突けたのではないのでしょうか。

グアム・レースをめぐる海難審判や民事訴訟などは、法律上の「船主責任」などが論議されます。これに対して、NORCの内部で論議されねばならないのは、ヨットの管理運航の実際の責任者である「オーナー」がいかにあるべきかという、いわゆる「オーナー責任」の問題であるはずで

す。海難審判や民事訴訟での「主催者責任」論も、法律上の問題です。NORCとして法律上の「責任」はなしとする立場を主張するのは当然として、それとは別に組織内部として、レースを行うにあたってなすべき責任を完全に果たしていたかどうかを謙虚に反省すべきだと思います。

このあたりの区別がはっきりしないためか、あるいは海難審判の本質に対する理解の不足のためか、座談会前半の論議には、大いに気になる

発言が見受けられます。

「オーナー教育」とはどのようなことを考えておられるのでしょうか。ましてや法規制の強化を望むがごとき発言は、大変な間違いですし恐ろしいことです。「ヨットレースのルールと法律と実態との mismatch」とは、何を指して言われるのか理解に苦しみませう。

初期のNORCは、会員がみな一様にシビアーな外洋レースを目指しており、外洋レースも八丈島、沖繩、グアムと、次々に長距離化しました。

IOR採用の頃から、登録艇数も、会員数も、鳥羽レースなどへの参加艇数も急速に増加したのですが、その反面シビアーな外洋レースへの出場艇は徐々に減少の傾向となりました。

現在のNORCの会員五千名のうち、レースに参加しているのは多く見積もっても千名以下といわれます。登録艇千四百隻のうちレースに参加しているのは何隻でしょうか。

会員の中には、サバイバルレースこそ本当のヨットだと思ふ人もいれば、グランプリレースに熱中する方々もおられます。しかし大半の会員は、レースには全く関心のない人、もっぱらクルージングを楽しむ人、沿岸で昼間乗っている人、ちょっと強風が吹けば出ない人など様々なのです。艇についても、隅々まで自分でチェックし徹底的に自信を持たねば気が済まない人もいる

し、簡単にカタログで艇を買ってオーナーになる人もおります。

シビアーな外洋レースへの出場艇が減少したことについて、座談会に出られた方々はこれを艇やオーナーが「駄目に」なったからだと言われます。個人としての流儀やヨット哲学としてこれは良く分かりますし、私も全く同感です。

しかしNORCの運営にあたる立場としては、オーナーや艇が駄目になったで済む問題ではありません。NORCは自分達のクラブの艇や会員のためにレースを主催するのであるから、ある程度の数の艇やオーナーに相応しいレースを設定しなければなりません。

「恰好だけの外洋ヨット」が多い現状でシビアーな外洋レースを主催するのならば、ある程度厳重な参加基準を設けるべきだし、少なくともこれについての論議は行われるべきでしょう。それを「オーナー責任」の一言で片付けては、主催者としてなすべきことをしていないのではないのでしょうか。

もし流儀の違う人達は無視して、自分の流儀だけで組織を運営するのなら、今のNORCを割らなければなりません。それはそれで一つの考え方ですが、現状ではあまりにも無理がありそうです。

とすれば、違う流儀の人達の立場や考え方も尊重した運営が必要でしょう。この点に関して座談会の後半には、なかなか意義ある発言がみられます。一つは会員の希望に応え

る多様なレースが必要だということ、もう一つはシビアなレースをやるためにはいろいろなレースの段階を踏んで行かねばならぬということです。

しかし一方においては「NORCは船を持っている人の入る協会では、これから買おうという人が入る協会ではない」などとの発言もあります。これは議論にもならない無責任な暴言として無視するとしても、全般的にレース活動オンリーの議論に終始しております。

艇や会員の大部分がレースに参加していないのが実態なのですから、その実態から論議を始めなければなりません。「駄目だ」で片付けたり、「再教育」などと言ったりしないで、何故レースに参加しないのか、また何故レースに参加しないのにNORCに入っているのかを考えてみるのが先ではないでしょうか。

さらに言えば、NORCに加入しない、あるいはNORCから抜けて行った外洋ヨット乗りが多いのは何故かということも、併せて考えるべ

きだと思えます。

(本記事タイトルは編集部作成)

#### ※編集部より

本誌220号座談会“事故の向こうに見えてくるもの”を含め、グアムレース事故に関する会員各位のご意見をお寄せください。幅広い視点から、私たちが乗り越えていかなければならない課題について考えていきたいと思えます。

日本外洋帆走協会 TEL:03-3504-1911 FAX:03-3504-1914

## 海難防止用ポスター図案及びキャッチコピー(含標語)の募集について

社団法人日本海難防止協会と財団法人海上保安協会では、海上保安庁の後援により、平成6年度実施予定(9月16日～9月30日)の全国海難防止強調運動等の海難防止キャンペーンに用いるポスター図案及びキャッチコピー(含標語)を、次の要領により募集しています。会員諸兄の奮ってのご応募をお願いします。

### 募集要領

#### 1. テーマ

##### 「出港前の安全確認」

気象・海象情報の入手、船体・機関の点検等の「出港前の安全確認」をテーマとしたポスター図案およびキャッチコピーで、海難防止に対する意識の高揚に役立つものであり、世間一般の人々にわかりやすくアピール性のあるもの。

#### 2. 募集作品

募集作品は、ポスター図案及びキャッチコピー(含標語)とし、本人の作品で未発表のものに限ります。

(それぞれ別個に応募願います。)

#### 3. 応募規定

##### (1)ポスター図案

ポスター図案は、B4サイズ(縦364mm、横257mm)の縦位置とし裏面に住所・氏名・職業・年齢・電話番号を明記して下さい。

なお、文字は主催者側で入れるので記入しないで下さい。

##### (2)キャッチコピー(含標語)

キャッチコピー(含標語)は、官製はがき1枚につき二作品以内を記入し、住所・氏名・職業・年齢・電話番号を明記して下さい。

##### (3)応募先

イ、最寄りの海上保安本部及び各海上保安(監)部

署に郵送または直接窓口へ提出して下さい。

ロ、(社)日本海難防止協会 企画部 TEL03(3502)2233 〒105 東京都港区虎ノ門1-14-1 郵政互助会琴平ビル

#### 4. 締切日

平成6年5月6日(金)(当日必着)

#### 5. 応募対象者

年齢・職業等何らの制限もありません。誰でも自由に応募できます。ポスターは小中学生の部を設けます。

#### 6. 選考方法

コピーは全国11ブロックで第一次選考を行い、中央で第二次選考を行います。ポスター図案は一次、二次とも中央で行います。

#### 7. 表彰及び賞

ポスター図案、キャッチコピーとも、海上保安庁長官賞、日本船舶振興会会長賞等多数の賞があります。

#### 8. 発表

6月末、海事刊行物、海上保安(監)部署の窓口で行うとともに、入選者には、直接連絡します。

#### 9. その他

・入選作品の著作権は主催者に帰属し、作品はお返ししません。

・ポスター図案については

最終秀作品……A全判の大きさに拡大して使用し、その際コピー、運動名等を記載します。なお、作品の一部修正、トリミング等を行うことがあります。

その他の入選作品……日本海難防止協会の広報誌「海と安全」の表紙として使用することがあります。

※詳細は、(社)日本海難防止協会 TEL 03-3502-2233へ問い合わせして下さい。

# 第127回理事会議事要旨

社団法人日本外洋帆走協会

## 1 日時

平成5年12月4日(土) 1300~1600

## 2 場所

東京都千代田区霞ヶ関3-2-3  
国立教育会館 503会議室

## 3 出席者

理事30名中 出席26名(うち委任状8名)

(出席)

大儀見薫 小林義彦 清水栄太郎 久保和男 並木茂士  
石井正行 児玉萬平 内藤恒夫 林賢之輔 古川保夫  
宮坂敬三 安岡信一 長谷川富延 都築勝利 秋山福夫  
松木 哲 岩田行史 川村安正

(委任状)

石原慎太郎 山崎達光 柴田邦敏 川端治夫 三井祥功  
秋田博正 平岡英信 山村 彰

(理事以外の出席)

平松栄一(顧問会議長) 剝岩政次(南九州支部長代理)

## 4 議題

- (1) 「たか」遺族からのNORCに対する損害賠償請求訴訟問題
- (2) 事業補助金申請の件
- (3) 平成6年度事業計画
- (4) 支部・委員会報告

## 5 議事

1300開会,出席理事は26名で本理事会の成立を確認,大儀見副会長が議長となり,議事録署名人に古川,林両理事を指名,議事に入った。

### 議題(1)「たか」遺族からのNORCに対する損害賠償請求訴訟問題

大儀見議長から,概略次の報告があった。

前回第126回理事会で詳細に報告をしたが,「たか」遺族3家族6氏から水川氏,国及びNORCに対し2億3484万円の損害賠償請求の提訴があり,第1回の公判が12月2日東京地裁で行われた。同公判でNORCは,原告が主張している,荒天下でのレース統行の責任,及びイーパブをめぐる責任について,全面的に争う旨主張した。

NORCでは,賠償問題対策特別委員会が随時3弁護

士と打ち合せを行い公判に対処しているが,次回平成6年2月3日の第2回公判に向け,スタンスを外洋ヨットに限らずヨット界全体におくこととして各論の訴訟戦術を検討している。なお,裁判の進行に伴い委員の増員が必要となってきたが,前回理事会で委員会の構成は当委員会に委任されているので,現在の大儀見,清水,尾島の3名に新たに石井,古川の2氏を加え書記は従前どおり服部氏として対応したい。

### 議題(2) 事業補助金申請の件

児玉財務委員長から,資料に基づき大要次の報告があった。

日本船舶振興会担当課のヒアリングは2回あった。今後も相当回数あると思う。現在,事業期間の短縮を求められている状況である。

各理事からの質問に移り,

#### \* 大儀見副会長

NORCの予算編成時には,ある程度の感触が掴めるか

児玉財務委員長

2月のNORC予算編成時には,事業補助金は固まっていない。したがって,当初予算は現状時点で編成し,補助金の内示時改めてNORC予算の編成替えを行い代議員会の承認を受けるようになるであろう。

なお,10月末現在の財務状況は,収入8,790万円支出8,013万円である。科目毎の詳細については資料を参照していただきたい。

### 議題(3) 平成6年度事業計画

大儀見議長から,各専門委員会・各支部の計画をお聞きしたい旨の発言があり,

#### \* 児玉財務委員長

94年度予算編成方針案を次のとおりとしたい。

- ① 会費は据え置く。
- ② 「たか」訴訟対策費として,次の臨時会費を設定する。  
特別会員8,000円,正会員2,000円  
これによって約1,500万円の基金を設ける。これを関東支部より借入の1,000万円を返済する原資とする。
- ③ 補助金収入3,800万円,補助事業支出4,800万円を計上する。
- ④ 計測,安全,通信,会報の各事業費は,93年度実績見込の50%を目安として決定する。

- ⑤ 管理費中、人件費を93年度実績見込に対し300万円減とする。
- ⑥ その他各委員会においては、収支の改善、費用の削減に協力をお願いしたい。例を挙げれば、海外出張は原則エコノミー、パック利用、安全委員会開催の効率化、イベントの収支改善等がある。

\* 宮坂帆走委員長

レース毎の独立採算性を基本にしているが、鳥羽レース以外は、非常に難しい。全国帆走委員会、関係委員会とともに何とか詰めたい。

\* 大儀見安全対策特別委員長

年内に計画をたて、予算を決めたい。

\* 並木関東支部長

12月開催予定の支部代議員会で諮ることとしたい。

・ 清水総務委員長

平成6年1月14日(金曜日1800から)に総務委員会を開催し、事業予算、事業計画を討議し、2月の理事会を経て代議員会へ提出したい。

- ・ 大儀見議長から、清水総務委員長の発言に関して諮られ、承認された。

- \* 大儀見議長から、予算に関し、臨時会費について、基本的な事項を本理事会で決定して、2月の代議員会へ理事会案として提案する必要がある、旨発言があり、種々論議した結果、

- ・ 名称 「たか裁判対策臨時会費」とする。
  - ・ 徴収期間 裁判が結審するまでの間。
  - ・ 会費の額 毎年、特別会員8,000円、正会員2,000円とする。
  - ・ 徴収方法 各支部の定めるところによる。
- とすることとなり、異議なく承認された。

\* 都築理事

東海支部から、前回理事会においてお願いしたVHF基地局設置補助の件についてはいかがか。東海支部としては場所の手当も進捗中であり、来年の鳥羽パールレース迄には開局したい。

- ・ 児玉財務委員長から、現在の財務状況では困難である、旨の回答があった。

\* 松木理事

淡輪ヨット局に環太平洋レース関連でSSBを増設する必要があり、関係機関・団体と交渉中であるが、同一無線機器をNORCと他団体で共有することについて、通信委員会はNORCの政策と異なるので理事会で審議の必要がある、との意見である。

・ 清水専務理事

提案を受けたが、無線局を利用するヨットは、NORCへの登録が必要である。旨の覚書を交わすことではいかがか。

## 議題(4) 支部・委員会報告

### ① 新入会員の承認

大儀見議長から、10・11月中の新入会員は、資料のとおり特別会員8名、正会員49名の57名で、総計では特別会員990名、正会員4,270名、準会員52名、計5,312名となる、旨説明があり、57名の入会が承認された。

### ② 94年J・C

児玉J C実行委員長から、資料に基づき概略次の報告があった。

- ・ タイトル

相模湾ゴールデンウィークシリーズ

CORUM JAPAN CUP外洋ヨット選手権シリーズ 1994

(・1994年度全日本選手権シリーズ

・1994年度ワントンクラス全日本選手権シリーズ)

- ・ 主催 社団法人日本外洋帆走協会

・ 主管 1994CORUM JAPAN CUP実行委員会  
NORC関東支部

- ・ 特別協賛・タイトルスポンサー

CORUM 日本タイマート株式会社

- ・ 主要大会役員

大会名誉会長 加藤忠男 (日本タイマート株式会社社長)

大会会長 並木茂士 (理事, '92J C実行委員長)

実行委員長 児玉萬平 (理事, '94準備委員長)

レース委員長 児玉萬平

総合プロデュース 浅野英武 (株)アトラインターナショナル 日本タイマート社・広報担当)

- ・ クラス分け (暫定)

レーティング ('93年度更新済みレーティング証書による)

Aグループ I O R 30.56以上

I M S 550~611.9GPH

A-1グループ I O R 30.00~30.55

Bグループ I O R 20.00~25.99

I M S 612.0~629.9GPH

Cグループ I M S 630.0~680.0GPH

- ・ 安全規定 (暫定)

カテゴリーIII以上、特別規定: ライフライン, VHF or TEL

- ・ エントリー締切

1994年3月31日

- ・ 日程

'94年4月23日~同5月14日

- ・ レースコース (予定)

インショア 佐島沖

ショートディスタンス タカキューカップコース (未定) と同一

## オフショア

## ショートオフショア

Aグループ 小網代～風早マーク～初島～小網代

B・Cグループ 小網代～風早マーク～小網代

## ロングオフショア

Aグループ 小網代～初島～神津島～新島～大島～小網代

B・Cグループ 小網代～初島～利島～小網代

なお、インターナショナルジャッジは、全日本選手権なので置かない方針であるが、エントリー状況をみて最終決定をする。

レース事業としては、(株)日本タイマート、NORC、アトラインターナショナル(総合プロデュースの浅野氏)の三者間で、事業の委託、受託契約を結びそれぞれの事業費及び役割を明確にすることとしている。

従来小型艇はジャパンカップかタカキューカップの何れかへのエントリーしか認められなかったが、94年はIOR 3/4以下、IMS 630以上の艇はタカキューカップにダブルエントリーをしてもらい、そのうちショート3レースを成績に加えることとした。

今後、具体的な詰めに入ってくるが、関係委員会の協力をお願いする。

## ③ 沖繩レース

宮城帆走委員長から、沖繩レースのコースを種々検討したが、沖繩支部のご努力によって宜野湾での長期間の停泊が可能となったこともあって、94年のコースを従来の沖繩スタートから、小網代スタート沖繩フィニッシュに変更したい。との提案があり、大儀見議長から諮られ、承認された。なお、同レースはカテゴリー1でSSB義務となる、旨同委員長から説明があった。

\* 清水専務理事から、前回の沖繩レースに対し海上保安庁から厳しい要望が出されたが、これをクリアしてもらいたい、旨発言があった。

## ④ 林計測委員長から、大要次の報告があった。

・ 11月、トロントにおけるORC総会の関係委員会に高橋技術委員長及び矢嶋計測委員が出席した。状況は近々会報で報告される。

・ 従来長さ12メートル以上の船舶の検査は国が実施していたが、船舶安全法が改正され来年5月末からは、総トン数20トン未満の船舶の検査は、日本小型船舶検査機構が実施することになった。本件については、嶋田顧問のご努力が大であった。

・ 従来、大橋計測副委員長が委員として出席していた日本船舶標準協会のマリンレジャー用舟艇部会船体一般委員会の委員を、今回、角技術委員に交代した。

## ⑤ 石井ルール委員長から、大要次の報告があった。

・ ナショナルジャッジについて、新規申請が少ない。毎年12月末が締切であるので、各支部長は多数の推

薦をお願いする。

・ ニッポンカップについて、ルール委員会が中心となって運営をサポートしたが、期間中のイベントにNORCとして出席する等のサポートをお願いしたい。

## ⑥ 環太平洋レース

松木理事から、現在のエントリー状況は、ロサンゼルス6、プリズベン16、上海11、釜山3、ウラジオストク24、計60隻であるとの報告があった。

## ⑦ ORC会議の状況

大儀見副会長から、概略次の報告があった。

会議では、前述したORC特別規定中のカテゴリー2の定義の改正を承認し及びレース運営のポリシー即ちヨットの管理はレースをスタートするかどうかの決定も含めてオーナーまたはオーナーの代理人の責任である、ことが確認された。

最大のテーマはIMSの在り方であった。IMSかIORの轍を踏むことなく発展することを期待して論議が重ねられた。技術的にはカーボン使用の件が議論され、クルーザー・レース派の米・日・北欧諸国の一部等とレース派の英・豪・ニュージー・オランダ等に2分され投票により決着、前者は12票、後者は15票でIMSレーシングクラスのハル素材としてのカーボン使用は承認された。

⑧ 大儀見副会長から、世界におけるIOR艇とIMS艇の隻数についてORCの資料により次の報告があった。

IOR艇は、1987年7,021隻であったが1992年2,113隻となり、1993年現在はおそらく2,000隻以下であろう、これに反し、IMS艇は、1987年1,172隻であったのが1992年5,481隻となり現在は6,000隻を超えていると思われる。

日本においては、1987年IOR艇155隻、1990年IOR艇142隻、IMS艇20隻、1993年IOR艇73隻、IMS艇51隻である。

他に、質疑応答等はなく以上で審議を終了し、1600、第127回理事会を終了した。

上記議事録に誤りのないことを証明し、記名押印する。

平成5年12月4日

議長 大儀見 薫

署名人 古川 保夫

署名人 林 賢之輔

## 事務局からの訂正とお詫び

総会資料別紙5 1993年会費未納者名簿にあります玄海支部特別会員00011木下隆一郎氏が事務局の手違いにより記載されていました事を訂正とお詫びいたします。



**22**  
**nd**  
**-**  
**30**  
**th**  
**00**  
**1**  
**94**

### THE PROGRAMME

FRI 21 OCT	<i>Opening Ceremony</i>
SAT 22 OCT	<b>OCEAN TRIANGLE RACE</b> <i>Caribbean Night</i>
SUN 23 OCT	<b>ISLAND RACE</b> <i>Dock Party</i>
MON 24 OCT	<b>WINDWARD/ LEEWARD RACE X 2</b> <i>Dock Party</i>
TUE 25 OCT	<b>OCEAN TRIANGLE RACE</b> <i>BBQ</i>
FRI 28 OCT	<b>LONG OFFSHORE RACE</b>
SUN 30 OCT	<i>Prizegiving</i>

**Hong Kong's**  
**Premier Offshore**  
**Racing Championship**

For more information contact  
 The Race Manager,  
 1994 Corum Cup Hong Kong,  
 Royal Hong Kong Yacht Club,  
 Kellett Island Hong Kong.  
 Fax: (852) 832 9242. Tel: (852) 891 0013.



Royal Hong Kong Yacht Club



Royal Ocean Racing Club



Clearwater Bay Golf & Country Club



A constituent event of the 1994 Champagne Mumm World Cup

# NORC保険デスクより

風水害補償と保管場所

今年も暖冬で8年連続という発表を先頃耳にしましたが、これは少し異常な気象状況が進行形なのかなと心配する理由になりそうです。

東京地方では2月の大雪や強風波浪と記憶に新しいはずですが、平成5年の台風と集中豪雨の災害（台風6号・7号・11号・13号・集中豪雨2件）の甚大な被害についても、主に九州地方が被災地となっていました。甚大災害として皆様の記憶に残っていることと思います。

平成5年の台風等災害によって、ヨットの損害がどの程度あったのかについては、詳しい資料はありませんが、ヨット保険を含む新種保険の全体としては、4,380件で支払保険金125億円で、合計支払保険金の9%という結果でした。（平成5年10月18日、損保協会損害調査部集計）

これからの活動開始を前に、自艇の保管係留時の安全性についても、再確認していただきたいと思えます。

保管場所としてはマリーナ・自主管理泊地・河川・運河等様々ですが、台風・集中豪雨等の風水害損害についてもヨット保険の船体保険で補償されますので、主な保管場所を基準に、一年間のクルージング計画による停泊地の選択も併せて検討することをお勧めします。

団体ヨット保険では、保管係留中の風水害危険補償コースを3コース用意し、船体保険補償が選択できるようになっています。

## ①ワイド補償コース

保管業者による保管中はもちろんのこと、管理者のいない漁港、河川等での保管中・係留中の風水害による損害も補償します。

## ②基本補償コース

保管業者による保管・係留中および、NORC保険小委の定めた安全な係留方法の基準を満たす認定安全泊地での係留中の風水害による損害を補償します。

## ③補償なしコースもあります。

もちろん保険料は①～③の順でお安くなります。

◎保管業者による保管・係留中以外の場合でも、NORC保険小委の定める認定安全泊地の係留艇は割安な基本補償コースでのご加入が出来るようになりました。

自艇の風水害による船体損害を補償するベストのコースは、上記の①ですが、保険料が割高になってしまいます。通常はマリーナ保管艇であっても、寄港した漁港等の管理者のいない泊地に艇を係留し、そのまま艇のみを残し、後日回航するような場合には、ワイド補償コースを選択すべきケースもありますので、十分にご検討をおねがいします。

保管業者とは下記の2要件が必要となります。

### ①艇の管理を業とするもの。

### ②有償による保管であること。

保管業者としては、民間マリーナを代表として、公共団体が設置し運営するヨットハーバーなどを別途事業団が管理する方式、さらには昨年水産庁の所管で全国23ヶ所の漁港で進められている、フィッシャリーナなどもその2要件に当てはまるものと考えられています。

けれども、保管業者及び管理の形態は様々であり、基本的には契約内容に『保管』という文言が明記されているかとか、それに代わる別途体制がタイアップされているか等を、

調べる必要がでてきます。

広辞苑によれば、保管とは「他人の物をあずかって、こわしたりなくしたりしないように保存すること」と記載されていますので、その意味合いによる保管業者であるかどうか基準になります。

NORC認定安全泊地は現在9泊地となりました。平成6年2月16日東海支部白谷（全体45艇）が認定されています。

全国の漁港管理者の使用許可を得て使用するために組織された自主管理泊地を運営するヨットクラブ等の団体として、この制度を利用されることをお勧めします。

NORC認定安全泊地の申請は、随時受け付けていますが、申請から認定まで2～3週間を要す場合もありますので、その期間を見越して申請準備を進めていただくようお願いいたします。

今回は保管場所を取り上げました。保管場所は保険加入者証に明記される事項ですが、主な保管場所として記載されているもので、ホームポートを離れて、一時的に短期に別途保管業者に保管する場合も、同様に基本補償コースで補償されます。

なお、保管場所を移したりした場合は、通知義務事項になっていますので、お知らせ下さるよう、お願い致します。

お問合せは **フリーダイヤル:0120-024410** (オフショアヨット)

NORC保険デスク ⑩101 東京都千代田区神田錦町1-9 天理ビル6F 東南興産株式会社 東京営業所内



# PAN-PACIFIC YACHT RACE スタート間近に迫る!

ロサンゼルス	ブリスベン	上海	釜山	ウラジオストク
4月24日	5月8日	5月30日	5月29日	5月22日
↓	↓	↓	↓	↓
関西国際空港				

日本初の24時間空港＝関西新空港の開港を記念して行われるPAN-PACIFIC YACHT RACEのスタートが間近に迫りました。このレースの最大の特徴はスタート地点が5か所に分かれ、そこから一路新空港を目指すところにあります。それぞれの艇は思惑と事情からどこを出発点にするかを決めていると思われます。エントリー総数139艇、日本からの出場艇だけでも54艇にもなりました。最長のロスアンゼルススタート(約6200マイル)には日本から2艇、オーストラリア・ブリスベンスタート(約4000マイル)には内海支部・堤建氏の“WILD-PERSEUS”、関東支部・稲葉文則氏の“ラッキーレディV”を始め、3艇がエントリーしています。そして近い割りには今までヨットと縁遠かった上海スタートには内海支部・村野裕氏の“JUNOV”、

“CAZA-7”の正井良知氏、玄海支部・川村安正氏の“LIBERTEEXPRES”ら何と40艇がエントリーしています。

ウラジオストク・スタートには日本人で唯一北海道支部の尾久真琴氏がエントリーしています。釜山スタートには西内海支部・藤田鉄一郎氏の“PANIDAX”、玄海支部・才田忠利氏の“飛梅”ら8艇がエントリーしています。

回航準備で忙しい“ラッキーレディV”、稲葉オーナーに抱負を伺ったところ、「地球を縦に帆走するブリスベンコース4000マイル……そこには現代失ってしまった冒険が我々を待ち受けている」と語ってくれました。なお“ラッキーレディV”は3/7現在、硫黄島の南50マイルをブリスベンに向けて回航中とのことでした。オフショア編集部では多数のN

ORC所属艇および特別会員、正会員の方がエントリーしているところから、出来るだけこのレースの模様をレポートしたいと考えています。

資料提供 環太平洋ヨットレース実行委員会



▲ブリスベンコース参加の“ラッキーレディV”

## 安全講習会のご案内

日本外洋帆走協会関東支部 東京中央フリート (共催)

先月号でもお知らせの通り、下記予定で安全講習会を行います。

日時 平成6年4月24日(日) 13:00~17:00  
 場所 夢の島マリーナ 東京都江東区新木場3丁目先 ☎03-5569-2710  
 参加費 無料 参加自由 問い合わせは関東支部 ☎03-3504-1911まで

今月の表紙: 開催期間中、大雪に見舞われたものの、熱心なプレジャーボートファンで賑わった今年の東京国際ボートショウ (撮影/市川和彦)

OFFSHORE 第223号 平成6年4月15日発行  
 毎月1回15日発行  
 昭和52年7月21日 第三種郵便物認可  
 1部定価300円(郵送料46円)

発行 社団法人 日本外洋帆走協会  
 東京都港区虎ノ門1-11-2(第2船舶振興ビル5階)  
 電話・東京03(3504)1911~3 〒105  
 郵便振替番号2-21787

印刷 明宏印刷株式会社

オーストラリアの快感。



## ヨット・モーターボート総合保険

東京海上火災保険株式会社  
住友海上火災保険株式会社

お問合せ先：会員代理店またはNORC保険デスク(フリーダイヤル0120-024-410)